

皮膚科のトリビア

240

浅井 俊弥(浅井皮膚科クリニック)

<http://www.asai-hihuka.com/trivia.html>

トリビア(trivia)=3を意味するtriと+道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」,そこから転じて「瑣末なこと」となり,今では雑学的知識,豆知識,などを意味する言葉として定着している。

本欄は,小誌・浅井編集委員が学会・研究会などで見聞きした「皮膚科のトリビア」をその都度まとめ,連載しています。ご意見等ございましたら,ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

●第18回神奈川フットケア研究会から

令和6年2月8日

足の不定愁訴とむくみに対する漢方薬

循環器科の医師による講演。冷えなどの足の不定愁訴や下肢のむくみに対して使用する漢方薬のまとめ。当帰四逆加呉茱萸生薑湯, 当帰芍薬散, 五苓散, 桂枝茯苓丸, 柴苓湯, 人參養榮湯などを用いている。このうち,単純な下肢の浮腫のみであれば,五苓散がおすすめで,そこに血栓性静脈炎や炎症,疼痛などの所見があれば,柴苓湯の併用を行っている。

一言コメント

「漢方薬は使い慣れていないので,診療に活かせることがない。ただし下肢の浮腫はいつも治療に困っているのだから,今後は検討してみよう。」

●第4回皮膚感染症くらぶ勉強会から

令和6年3月10日

TPLAの解釈

梅毒血清自動化法に用いられるメディエース® TPLA®, メディエース® RPRは, 積水メディカルの登録商標である。Treponema Pallidum Latex Agglutination Assay(TPLA)の測定単位はT.U.(titer units)で, 1,280T.U.はTreponema Pallidum Hemagglutination Assay(TPHA)の1,280倍に相当する。Rapid Plasma Reagin(RPR)の測定単位はR.U.(RPR units)で, 1R.U.はRPRカー

ド法の1倍に相当する。TPLAはトレポネーマに対するIgG抗体だけでなくIgM抗体も検出するのでTPHAより陽性となる時期が早いため,梅毒感染初期にTPLA陽性,RPR陰性となることがあり,治療後,治療後の梅毒と判断される可能性があるため注意が必要である。また治療の判定は,TPHAでは12カ月以内に1/4以下に低下という目安があるが,TPLAでは1/2以下としている。

一言コメント

「慣れるまでに時間がかかりそうである。なお,イムノクロマトグラフ法による抗TP抗体検出キット,ダイナスクリーン™ TPAbというものもあるようだ。15分で検出可能で,全血でも使用可能とのこと。臨床現場での活用法を考えてみたい。」

●第4回皮膚感染症くらぶ勉強会から

令和6年3月10日

小児の虫除けはイカリジンを勧めるほうがよい

虫除けで一般的に用いられているディートは30%では12歳以上が適応。10%以下の製剤は,生後6カ月未満の乳児には使用禁で,6カ月以上2歳未満で1日1回,2~11歳では1日3回までと投与回数に制限がある。もう1つの成分イカリジンは年齢制限や使用回数制限がない。においもしないので小児にはこちらを勧めたほうが無難。吹きかけるだけでなくしっかりと皮膚に塗り伸ばすよう指導すること。

一言コメント

「虫除けと殺虫剤は新製品も多く,情報が頻繁に更新

されているので、KINCHO、アース、フマキラーのホームページはときどき確認しておく必要がありそうだ。」

●某製薬会社主催Web講演会から

令和6年3月11日

PFASの原因抗原のおさらい

花粉-食物アレルギー症候群の抗原 (pan-allergen ファミリー) のおさらい。花粉の抗原として、PR-10に属するのがシラカバのBet v1、ハンノキのAln g1、プロフィリンに属するのがシラカバのBet v2、ヨモギのArt v4、lipid transfer proteins (LTP) に属するのが、ヨモギのArt v3、ブタクサのAmb a6が有名。PR-10とプロフィリンの多くは熱不安定・易消化性で、加熱、消化酵素で抗原性が失活するが、PR-10に属する大豆のGly m4やLTPは加熱や消化に耐性があるので注意が必要。

一言コメント

「絶対覚えられない。果物を加熱して食することはないと思うが、一応、加熱した食材でも症状がおこるかどうかは患者に聞くべきと思った。」

●第196回日本皮膚科学会鹿児島地方会から

令和6年3月31日

DNase1がSJS/TENの治療薬になる可能性

浸潤した好中球が放出するNetsは、細菌などを捕獲する働きがあり、通常は感染防御に役立っているが、Stevens-Johnson症候群 (Stevens-Johnson syndrome : SJS) / 中毒性表皮壊死融解症 (toxic epidermal necrolysis : TEN) においては表皮の壊死を誘導する有害な機構であることが判明した。通常、Netsは内因性のDNase1によって分解され、その機能を失うが、SJS/TENではDNase1が消耗しているために、Netsによる表皮壊死が進行すると考えられ、DNase1の投与がSJS/TENの治療に貢献できる可能性がある。DNase1製剤のドルナーゼアルファ (プルモザイム®吸入液) は、DNAを多く含む膿性の痰の粘稠性を低下させる作用があり、嚢胞性線維症の肺機能改善に対して保険収載されている薬剤である。これがSJS/TENの発症後の悪化予防に有効かもしれない。

一言コメント

「とてもユニークな発想で感心した。投与経路は外用になるのだろうか。研究の進捗が楽しみである。」

●某企業主催講演会から

令和6年4月16日

保険収載されたスマート降圧療法

CureApp HT高血圧治療補助アプリの説明会。患者には生活習慣改善のポイントを示し、よい行動を実践するように促し、それを習慣化させる流れを、オリジナルキャラクターとのチャットを通じて行うというもの。医師側は患者の血圧の推移をグラフで確認できる。国内で行われた第III相試験では、降圧薬による治療を受けていない本態性高血圧症の患者に標準的な生活習慣指導だけの群とアプリ介入群にランダム化し、自由行動下血圧測定による24時間の平均値のベースラインからの変化量を主要評価項目として検証した。12週時において、アプリ介入群は24時間平均値で-4.9 mmHg、対象群は-2.5 mmHg、起床時家庭血圧はアプリ介入群で-10.6、対照群で-6.2、診察室血圧はアプリ介入群で-13.0、対照群で-9.4と、それぞれで有意な低下が証明された。体重、BMI、塩分摂取量も有意な低下を認めた。医師と一緒に取り組む生活習慣の改善が、高血圧の治療につながっている。

一言コメント

「高血圧症治療補助プログラム加算として、初回140点、初回月から6カ月は830点が請求可能。1週間で5日以上アプリ入力が必要とのこと。皮膚科の慢性疾患でも保険適用アプリが開発されるかもしれない。」